

解説

自治体の東京事務所？

かなやま たけし
金山 武史
熊本市
東京事務所長

1 はじめに

本稿をご覧になる方のほとんどは、ピンとこないのではないのでしょうか。

私自身も、今回本稿執筆のお話を日本大学生産工学部の森田先生からいただくまで、まさかこのような著名な技術誌に自分が投稿させていただくとは思ってもみませんでした。しかし考えてみれば、東京事務所という仕事は、日々驚きの体験で成り立っておりまして、皆様にはその一端をお披露目させていただくことが私の役割と思い、今筆を走らせています。「なんのこっちゃ？」と興味を持っていたいただいた皆様には、これからその不思議な世界と、日本で一番南にある政令指定都市・熊本市についてご紹介させていただきますので、しばしお付き合いください。

2 東京事務所の役割って？

現在、ほとんどの都道府県&政令指定都市と、多くの地方の中核都市が、東京に事務所を構えています。場所は多くが国会と霞が関に近い、永田町界隈。事務所の規模は多くの都市では10名以下と、決して大所帯ではありませんが、守備範囲は広範囲です。

例えば、下水道はじめ自治体の事業は国からの補助金等で成り立っていますので、いかに上手に活用できるかが賢い支出のために重要です。このため、各地の首

長が国の予算や税制、法制度の節目ごとに、国の予算措置や制度改革を求めて大挙して上京し、中央省庁や国会議員に対し要望活動を行います。中でも、国土交通省は、いまだに要望活動の出席簿(?)があると信じられている、自治体要望が最も盛んな省庁。シーズンには、ロビーから館内から要望団でごった返し、まるで戦場に。東京事務所職員は、道案内&食事場所確保&タクシー捕まえ係となって走り回ります。

そんな風景も、コロナ禍で一変。今は、感染拡大防止のため、庁内をむやみに歩き回することは禁じられ、要望団も最大5人までというルールが厳格に適用されています。それでも他都市よりいかに有利な事業を勝ち取るか、そのために、今日も東京事務所は戦い続けます。

3 くまモン、走る！

2つ目の東京事務所機能は、都市の売り込み・シティプロモーションです。首都圏から地元への観光誘客や地元産品の販路拡大、最近ではふるさと納税の宣伝など、あの手この手で宣伝活動を行います。

わが熊本県には、世界に誇る大スターくまモンがいますので、今や日本全国、いや海外にまで出動している忙しいくまモンをいかに登場させることができるのか、推進工法も驚きの高度技術を駆使しながら登場してもらっています。くまモンが出動するや否や、イベント会場は大盛り

上がり。熱烈なファンの皆さんは、情報収集能力が素晴らしく、必ず見に来てくれます。子どもも大人も、走って跳んで踊りまくって、の大スターにきぎ付け……あれ、ちょっと待てよ、これ何のPRだっけ？そう、いつも悩みはくまモンを目当てに集まってくれた皆さんに最強の城熊本城を中心に発展した、長い歴史文化に育まれた上質な生活都市であることを、くまモンに隠れないようにいかにアピールするかですかね……。



写真-1 熊本が誇る大スターくまモン

4 昔工場誘致、今人たらし

3つ目のミッション、企業誘致。昔は働き場所となる工場を地方に誘致し、出稼ぎに行かなくてもよい環境を作ることでしたが、時代も移り変わり、今やあらゆる産業がDX化、子どもの将来の夢はYoutuberという時代になりました。さらにコロナ禍で働き方改革が一気に進み、オフィスに出勤しなくても仕事ができる世の中に。

こうした中熊本市も、今は人の誘致に取り組んでいます。例えば、都内のIT系企業の新たな拠点づくりや、自治体とのコラボ、地元企業との連携マッチング等を通じて、熊本との関係人口を増やす作戦で、ゆくゆくは移住定住につながるように。2022年4月には、熊本駅前にビジネス&スタートアップ支援拠点施設を開設し、さらなる人の交わりによる新事業創出を目指しています。



写真-2 熊本駅前に誕生したビジネス拠点クロスポイント

5 水と森の都、いつまでも

熊本市は、74万市民の飲料水・生活用水をすべて地下水で賄う、世界に稀な都市と言われています。阿蘇山は世界最大のカルデラと言っていますが、カルデラ内から流れ出る河川は1本しかありません。火山灰土壌に染み込んだ水は地下を長い時間かけて熊本市方面に流れ、湧きだします。この阿蘇の伏流水は、夏は冷たく冬温かい、自然の与えてくださった宝物。豊かな水資源は豊穡の大地を潤し、スイカ、ナス、トマトなどの一大産地を、また、熊本城を彩る楠の大樹を街中から望む緑豊かな森の都を育ててくれました。2022年4月には、首脳クラスが集まる「第4回アジア・太平洋水サミット」を開催し、総合的な水保全の取組の重要性を世界に発信。この世界にも稀な地下水都市の水循環を支えているのが、上下水道インフラです。



写真-3 地下水を主な水源とする市民の憩いの場江津湖